

## 「ありがとう」と「すみません」に関する一考察

小野 正樹 (筑波大学)

### 要 旨

本稿は感謝表現としての日本語「ありがとう」と「すみません」について、ポライトネス理論を含め、話者として感謝の対象との関わり、話者と聴者の立場を含めた発話状況、発話に至る視点のメカニズム、談話の流れから、両者の異なりを記述する。分析の結果、以下の3つの原則と、2つの傾向を提示する。《原則1》感謝の対象行為が当然性の高い際に「ありがとう」、当然性の低い際に「すみません」が用いられる。《原則2》感謝を述べる際の話者の上位・公的視点が「ありがとう」が選択され、下位・私的視点として「すみません」が選択される。《原則3》話者・行為者視点では「ありがとう」、聴者・受益者視点では「すみません」となっている。また、アンケート調査、およびコーパス調査から、《傾向1》「すみません」が先行し、「ありがとう」が続いて出現すること、《傾向2》として、発話の終わりを示す言い尽くしが「ありがとう」で、発話の継続性サインである言い残しの「すみません」であることを述べる。

キーワード：当然性、視点、受益者、位置

### 0.はじめに

日本語の感謝表現と、謝罪表現は状況により、両表現が可能であり、その代表的な表現が「すみません」である。『広辞苑』第六版には、「すまない」の説明として以下の記述がある。

(1)(このままでは終わらない意から)相手に悪く、自分の気持が片づかない。申しわけない。謝罪や依頼の時にいう。「遅れてー」「ーけどやって欲しい」

『広辞苑』第六版

だが、多くの先行研究で指摘されているように、「すみません」が相手への感謝を示すこともできる。一方、「ありがとう」は「御心ありがたう候」(大観本謡曲・松風1423頃 『日本国語大辞典』)とあり、感謝の気持ちを表す表現として長く定着しているものである。では、「ありがとう」と「すみません」がどのように異なるのか、ポライトネス理論を含め、話者として感謝の対象との関わり、話者と聴者の立場を含めた発話状況、発話に至る発想のプロセスから、両者の異なりについて私論を述べる。

### 1.感謝表現とは

はじめに Leech (1983) 「是認の原則(Approbation Maxim)」に「賞賛」という用語が見られるが、この「賞賛」を「感謝」に置き換えてみたい。

- (a)他者への非難を最小限にせよ
- (b)他者への賞賛を最大限にせよ
- (b')→他者への感謝は最大限にせよ

(2) {大変 \*少々}ありがとうと言いたい。

例として、(2)に見るように「大変」とは共起できても、「少々」とは共起ができないことから、感謝を最大限にしない場合には日本語では不自然となろう。

## 2.感謝の対象

その上で、話者がある事態に対する感謝をどのように表現するのか。そこには、事態と話者の関係がある。

(3)いつも {ありがとう/すみません}。

(4)お父さん、お母さん、29年間育ててくれて {ありがとうございました/\*すみませんでした}。お父さんお母さんのお陰で無事にこの日を迎える事が出来て心から感謝の気持ちでいっぱいです。

<[http://womanwedding.com/bride\\_magazine/letter\\_1.html](http://womanwedding.com/bride_magazine/letter_1.html)>

(3)のように「ありがとう」と「すみません」がいずれも成り立つこともあるが、(4)では「すみません」は不適切で、仮に「すみません」と発話する場合は謝罪表現であろう。次に坂本(1999)での指摘を紹介する。

(5)AがBにバスで席を譲る状況

A: どうぞ。

B: {\*ありがとう/すみません}。

バスで席をゆずってもらうような時は、当然性の低いことをしてくれた、そのような配慮をさせたことに対して「すみません」が出る。「ありがとう」だけなら、席をゆずるのは当然だと思っていることを示すことになってしまう。従って、ここでは「すみません」が必須なのである。(中略)「ありがとう」と「すみません」は同じような状況で使われ、どちらも「感謝」とされるが、実際には相手と自分との立場、社会的役割から生まれる当然性の違いによって使い分けられている。

このことから、次の原則が導かれる。

《原則1》→当然性の高い「ありがとう」・当然性の低い「すみません」

ここで言う「当然性」とは感謝の対象となる行為を受益する権利を言う。(4)のように親が子を育てることは当然性に含まれよう。「すみません」と発話した場合には、この当然性への感謝ではなく、話者自身の謝罪として解釈される。

## 3.話者・聴者の関係

日本語では話者聴者間の関係は言語表現に大きな影響を与える。はじめに、話者と聴者を power や、公的・私的の点から見ることにする。この power は Brown and Levinson(1987)の FTA 度計算式(computing the weightiness of an FTA)にも挙げられ、当該の行為 x が相手のフェイスを脅かす度合の強さ  $W_x$  を算出する計算式で提示されている。

$$W_x = D(S,H) + P(H,S) + R_x$$

FTA(Face-Threatening Act)の3要素

D(S,H) : 話者Sと相手Hの社会的距離(social distance)

P(H,S) : 相手Hの話者Sに対する相対的力(power)

Rx：特定の文化で、行為 x が相手にかかる負荷度(ranking of imposition)

また、公的・私的というのは、文化庁の「敬語の指針」でも明記されているもので、「例えば、公的な場での改まった気持ちと、私的な場でのくつろいだ気持ちとを人は区別する。敬語はそうした気持ちを表現する役割も担う。」(平成19年2月2日文化審議会答申 p.5)とされる。日本語では敬体と常体に反映されるなど、公的と私的は両極である。

### 3.1. 「上位」・「下位」的立場からの発話

教員と学生を比較すると、教員からの発話機能をみると、教員に power を持つ方が一般的である。

(6)〈教員から学生に〉「協力、{ありがとう／\*すみません}。」

(7)〈学生から教員に〉「(ご)協力、{\*ありがとう／すみません}。」

学生が教員に対して「ありがとう」と述べるのは通常あり得ない。一方で教員から「すみません」が発話される場合には、依頼の前置き表現などに見られるものである。この場合には「ありがとう」は相容れない。

(8)何度でもご協力 {\*ありがたいですが／すみませんが}、

(9)新年早々、お願いばかりで {\*ありがたいですが／すみませんが}、

### 3.2. 「公的」・「私的」立場での発話

一般に公的な状況では「ありがとう」が選択されている。

(10)昨年の11・12月に皆様のご協力をいただき実施しました「入院外来満足度調査」の結果がまとまりましたので、下記のとおり公表させていただきます。この調査結果をもとに、今後とも、よりよい病院へ向けた改善活動に努めてまいります。ご協力ありがとうございました。

埼玉県 HP より<<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/24-05.html>>

このことは、次の例からも同様に考えられるだろう。

(11)首相が外交関係等で代表者として述べる場合：「ご協力、{ありがとう／\*すみません}。」

(12)一般人として述べる場合：「協力、{ありがとう／すみません}。」

そこで、国会会議録検索システム<<http://kokkai.ndl.go.jp>>を使って検索したところ、国会という公的な場面での使用は、「ありがとう」が3,231件ヒットしたのに対し、「すみません」はわずか1件であった。この傾向から次の原則を示す。

《原則2》→上位・公的視点の「ありがとう」、下位・私的視点の「すみません」

## 4. 視点

### 4.1. 視点の可動性

勝者と敗者、加害者と被害者、受益者と与益者などある出来事は、視点によって表現が異なることがある。熊取谷(1990)の記述である。「感謝の場面『すみません』を使用する現象を『感謝の表現交替現象』と呼ぶ」とし、「交替現象は丁寧行動の方策の一種として機能するものであり、「話し手にとっての快適状況」を「聞き手にとっての不快状況」と解釈する操作」としている。

- (13) A: ちょっと、それ取っていただけますか。  
 B: はい、どうぞ。  
 A: どうもありがとうございます。[話者にとって快適状況]
- (14) A: ちょっと、それ取っていただけますか。  
 B: はい、どうぞ。  
 A: どうもすみません。[聴者にとって不快状況]

話者にとっての感情を、そのまま話者視点の立場で述べれば「ありがとう」になるのに対し、聴者視点の立場に移動して述べれば「すみません」となるという指摘である。ここに日本語の視点の可動性が見られる。

#### 4.2. 視点のメカニズム

視点の可動性は日本語では非常に発達していると思われる。中でも授受表現がその代表的なもので、「くれる」「もらう」はともに三上(1970)で「自者に対して求心的」運動とされたものである<sup>(1)</sup>。

- (15) 手伝ってくれて、{ありがとう>すみません}。  
 (16) 手伝ってもらって、{すみません>ありがとう}。

筆者の直感では、「くれる」の場合には「ありがとう」の方が続きやすく、「もらう」の場合には「すみません」の方が続きやすく感じる。そこで、『現代日本語書き言葉均衡コーパス 少納言』と、検索サイト Yahoo で、「～くれてありがとう」「～くれてすみません」、「～もらってありがとう」「～もらってすみません」のコロケーション数を調査した。

<表 1> 「ありがとう」と「すみません」と授受表現の選択

	『現代日本語書き言葉均衡コーパス 少納言』	検索サイト Yahoo JAPAN 2014年2月3日16時		
	～くれて	～もらって	～くれて	～もらって
ありがとう	34	0	約 309,000,000	約 7,340,000
すみません	0	1	約 50,900,000	約 453,000

『現代日本語書き言葉均衡コーパス 少納言』 <[http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/search\\_form](http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/search_form)>  
 非求心的「あげる」に対応する「もらう」「くれる」いずれも「ありがとう」の方が多いうことは、話者視点で述べる方が一般的のようである。

<表 2> 「手伝う」+授受表現と「ありがとう」「すみません」

手伝って	あげて	*ありがとう *すみません
	《行為者主格》《受益者与格》	
	くれて	ありがとう・すみません
	ガ格《行為者主格》+ニ格《受益者与格》	《話者視点》・《聴者視点》
	もらって	ありがとう・すみません
	ガ格《受益者主格》+ニ格《与益者与格》	《話者視点》・《聴者視点》

「くれる」ではガ格《行為者主格》に対して、「もらう」ではニ格《与益者与格》への感謝を表すこととなる。

《原則3》→話者視点で・行為者主格への「ありがとう」、聴者視点で・与益者与格への「すみません」

## 5. 談話の流れ

### 5.1. 負担度による選択調査

デミルタシュ・エスラ(2012)は、「ありがとう」と「すみません」の母語話者の選択を発話の状況を設定して、談話完成テスト調査に基づき、以下のように報告している。調査概要は以下の通りである。

対象：20代の大学生 36人

方法：質問紙調査

〈表3〉「ありがとう」と「すみません」の選択アンケートの内容(デミルタシュ・エスラ 2012)

質問番号	内容
I. a	先輩にペンを借りる。
I. b	先輩が使っている辞書を少しの間だけ借りる。
II. a	先輩に発表の練習を見てもらう。
II. b	先輩に待ち合わせの時間を変更してもらう。
II. c	先輩が発表資料の印刷を申し出してくれる。
II. d	先輩が発表資料の配布を申し出してくれる。
III. a	ルームメートの先輩に自分の友達を自分の部屋に一泊させてもいいか聞く。(先輩は数日後、発表があり、準備が忙しい。)
III. b	ルームメートの先輩に友達の滞在期間を延長してもいいか聞く。(先輩は数日後、発表があり、準備が忙しい。)
IV. a	先にエレベーターに乗っていた見知らぬ人がドアを開けてくれた。
IV. b	見知らぬ人があなたの落としたハンカチを拾ってくれた。

傾向の指摘：

1. 負担が高い方が低い方より回答に見られる表現のバリエーションが多い。
  - 1.1 自分から依頼したことが相手にかかる負担が低い時は、「ありがとうございます」がよく使われる。
  - 1.2 相手にかかる負担が高い時は、「ありがとう」や「すみません」だけの表現はあまり使われない。「すみません」と「ありがとうございます」を合わせた「すみません。ありがとうございます」という表現が使われる傾向がある。また、「ありがとう」や「すみません」の後に「助かります」や「すぐ返します」などの表現を付加する傾向がある。
2. 相手から申し出てくる場合は、「ありがとうございます」か「すみません」のみが使用される傾向がある。負担の高低によって使い分けが行われていない。

《傾向1》→「すみません」→「ありがとう」の出現傾向

## 5.2. 談話機能の観点

謝罪表現ともなる「すみません」が先行して、「ありがとう」が後続する現象は日本語「ありがとう」と英語 Thank you にも共通して見られる。電子メール等の結語に、Best regards、Sincerity と同様に Thank you あるいは Thanks を用いることがある。

しかしながら、英語で Thank you と表現可能なところに、「ありがとう」を入れ込むと、(17)のように不自然となる場合がある。

(17)\*\*\*\*先生、こんにちは。月曜日の授業を受けている\*\*\*\*です。今週の宿題の話なんですけど、今週、授業に欠席をしまいましたので、宿題の締め切りが水曜日の01時までのことが知ってませんでした。当然、木曜日の夜までだと思って、今、宿題を提出しようとしたんですが、いまはできないということを知るようになりました。いま提出できませんでしょうか。ありがとうございます。

英語(あるいは母語)からの語用論的転移で、日本語では「よろしくお願いします」の方が適していると思われる場合に「ありがとう」と言う例である。

(18)〈別れる際の語として〉 じゃあ、{ありがとう/\*すみません}。

一方、日本語では呼びかけ語としては「すみません」は可能であり、ここで「言い尽くし」が「ありがとう」で、「言い残し(あるいは言い始め)」が「すみません」の機能を持つ。

(19)呼びかけ語として {\*ありがとう/すみません}。

《原則4》→言い尽くしの「ありがとう」、言い残しの「すみません」

## 6. 辞書記述

最後に、通時的に「ありがとう」と「すみません」の辞書記述を『日本国語大辞典』に基づき紹介する。

「ありがとう」の語源は古く、大観本謡曲・松風(1423頃)「御志ありがたう候」に見られるとされる。品詞は形容詞「ありがたし」である。

(20)「何方(あなた)のお影にて主人長々の大病本腹仕り、ありがたふ存ます」

浮世草子・笑談医者気質(1774)四

(21)「客を送る仲居は、モシありがたふ、愛郎(いろ)を往(いな)す芸子は、そんなら {エ} とぬれたり」

洒落本・北華通情(1794)自序

一方、「すみません」は19世紀になって登場したようである。

1 「気持ちの上で満足しない、納得しない」

(22)「此世界へいらっしゃア上(あが)らねへじゃアすみません」

洒落本・松登妓話(1800)

2 「申しわけありません」「ありがとうございます」

(23)「貴嬢の注意を惹かうとして、不都合な老獪手段を用ひたはすみませんでした」

## 二葉亭四迷『めぐりあひ』(1888-89)

動詞「済む」の否定形であるため、前節で挙げた「言い残し」という説明は、こうした語源とも結びついていよう。

### 7.まとめ

日本語の「ありがとう」と「すみません」について私論を述べた。なぜ謝罪表現の「すみません」が感謝表現にも用いられるのか、川口(2013 p.44)に興味深い報告がある。2011年3月11日の東日本大震災にまつわる話である。

ドイツのニュース週刊誌『Stem』(3月24日号)に、救助してもらった老女が「すみません」と発話したことに、『Stem』のライターが「老女が他人に迷惑をかけたことを恥じて謝っていると解釈し、1946年に刊行されたルース・ベネディクト女史の『菊と刀』に書かれている日本人独特の「恥と文化」まで持ち出している。

このドイツ人記者の解釈は誤解だと思われるが、「すみません」と「ありがとう」が外国人にはわかりにくいことはしばしば聞かれることである。同義と言うことには、筆者は同意でなく、ある事態に対する話者の視点の異なりが、異なる表現として表れていると解釈したい。

### 注

(1)澤田淳氏にはダイクシス表現と視点について多大な教示を得ました。ここに感謝申し上げます。

### 参考文献

- 伊藤博美 (2010) 「授受構文における受益と恩恵および丁寧さー「てくれる」文と「てもらう」文を中心として」『日本語学論集』第6号、pp.151-132
- 内田聖二 (2003) 「「すみません」と「ありがとう」」、『学習研究』402、奈良女子大学：1
- 小川治子 (1993) 「「すみません」の社会言語学的考察」『言語文化と日本語教育』6、『お茶の水女子大学日本語文化学会』：36-46
- 尾崎喜光 (2005) 「依頼行動と感謝行動から見た日韓の異同」『日本語学』24(8)、(特集 ことばの日韓比較)、『日本語学』24(8)特集「依頼行動と感謝行動から見た日韓の異同 (特集 ことばの日韓比較)」：42-51
- 小野由美子・渡辺洋美・広瀬研也 (1999) 「「ありがとう」と「すみません」の使用をめぐって」『鳴門教育大学実技教育研究』9：75-81
- 金子尚一 (1985) 「日本語への視点--日本語教育から 言語生活から言語へ--アイサツ表現の意味・用法の調査の必要性(「すみません」のばあいを例として) (日本語--国際化社会への飛翔<特集>)」『国文学解釈と鑑賞』50(3)：22-27
- 川口 マーン 恵美 (2013) 『住んでみたドイツ 8勝2敗で日本の勝ち』、講談社プラスアルファ新書
- 熊取谷哲夫 (1990) 「日本語の「感謝」における表現交替現象とその社会言語学的モデル」『表現研究』52、表現学会：36-44
- \_\_\_\_\_ (1991) 「日本語における「感謝」の談話構造と表現配列 - 「すみません」と「ありがとう」の場合

- 合-1 『広島大学日本語教育学科紀要』1: 61-67,  
\_\_\_\_\_ (1993) 「発話行為対照研究のための統合的アプローチ--日英語の「詫び」を例に (語用論<特集>)」  
『日本語教育』(79): 26-40
- 小森万里 (2001) 「「すみません」の意味・機能」『近畿大学語学センタ-紀要』10(1): 14-32,  
佐久間勝彦(1983) 「感謝と詫び」『講座 日本語の表現』3、筑摩書房
- 住田幾子 (1990) 「感謝のあいさつことば: 「ありがとう」と「すみません」について」『日本文学研究』26、  
梅光学院大学: A1-A11
- 坂本恵 (1999) 「「ありがとう」と「すみません」、『麒麟』08、神奈川大学: 90-87
- デミルタシュ・エスラ (2012) 「感謝の意味での「すみません」と「ありがとう」の使い分けについて」『報告  
書 異文化との出会い 日本語研修生修了論文集』、筑波大学日本語・日本文化学類: 1-13
- 中村香代子 (2006) 「感謝ストラテジーの日独対照研究およびドイツ人日本語学習者のストラテジー選択」『言  
語情報科学』東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻: 243-257
- 日比野新・長友文子 (2000) 「留学生の感謝表現の調査: 日本人学生と比較して」、『和歌山大学教育学部教育  
実践研究指導センター紀要』10: 139-148
- 三上章 (1970) 『文法小論集』くろしお出版
- 村上紗絵子 (1999) 「感謝のあいさつ言葉: 「ありがとう」「ありがとうございます」「すみません」の使い分  
けについて」、『葛野』3: 52-66
- 山本もと子 (2003) 「感謝の謝罪表現「すみません」: 「すみません」が感謝と謝罪の両方の意味を持つわけ」  
『信州大学留学生センター紀要』4: 1-13

## 辞書

- 新村出(著)・(編)(2008) 『広辞苑』第六版、岩波書店  
小学館(編)(2005) 『精選版 日本国語大辞典』

## 使用データ

- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス 少納言』大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所と文部  
科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」プロジェクト <http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>  
『国会会議録検索システム』国立国会図書館 <http://kokkai.ndl.go.jp/>  
埼玉県ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/>

(小野正樹、筑波大学人文社会系准教授、ono.masaki.ga@u.tsukuba.ac.jp)